

モルドバ月報

2022年12月〔モルドバの報道をもとに作成〕

令和5年1月4日 在モルドバ大使館

【主な出来事】

- 1日、露によるウクライナ侵攻を受けた緊急事態期間が12月6日より60日間延長されることが議会決定された。
- 1-3日、サンドゥ大統領がWAW！出席のため訪日し、岸田総理、林外相等と会談を行った。
- 3日、OSCE外相理事会のマージンでポベスク外相と武井外務副大臣の会談が行われた。

1. 内政

- **露によるウクライナ侵攻を受けた緊急事態期間の延長**
1日、露によるウクライナ侵攻を受けた緊急事態期間が12月6日より60日間（注：2023年2月3日まで）延長されることが議会で採択された。
- **ショール党全国大会の開催**
7日、ショール党はオルハイで全国大会を開催した。3000人が出席し、大統領選挙と議会選挙の早期実施を求めた。
イラン・ショール同党党首もビデオメッセージを送付し、モルドバ再興のために全責任を負う準備ができている旨等述べた。
- **緊急事態委員会によるテレビ局6局のライセンス停止**
16日、緊急事態委員会は、国内の情報空間保護のためにテレビ局6局（Primul in Moldova, RTR Moldova, Accent TV, NTV Moldova, TV6, Orhei TV）のライセンスを停止した。（注：全6局ともロシア、社会党、ショール党が関わっている。）

トランスニストリア関連

- **テロ警戒レベル「イエロー」期間の延長**
4日、テロ警戒レベルの「イエロー」期間が20日まで延長され、18日に2023年1月19日まで再延長された。
- **トランスニストリア「議会議長」一行の訪露**
15日、モスクワを訪問したトランスニストリア「議会議長」一行は、複数の露議会議員と会談し、モルドバ当局による同地域の自由な経済活動や市民の移動の自由、憲法規範の侵害について訴えた。また、エネルギー問題やそれに起因する同地域の人道危機等について議論した。

2. 外政

- **ポベスク外相のOSCE外相理事会出席（於：ポーランド）**
1-3日、OSCE外相理事会に出席したポベスク外相は、露によるウクライナ戦争によって欧州の平和、安全保障、繁栄が脅かされていること、及び同戦争は国際規範に反するものであることを再確認し、モルドバのウクライナへの団結、モルドバ国内のウクライナ避難民への支援継続、及びモルドバが自由な世界に残ることを強調しつつ、EU加盟に向けたコミットメントを表明した。また、モルドバ支援国会合を通じた関係各国からの各種支援に謝意を述べた。トランスニストリア紛争に関し、国際的に認められた国境内での主権と領土一体性に基づいて平和的な解決を目指すとし、違法に駐留する露軍の撤退と火薬庫の撤去を求めた。
ポベスク外相はマージンでルーマニア、ウクライナ、フィンランド、スロバキア、オーストリア、ハンガリー、ポーランドの外相と会談した。
- **サンドゥ大統領の訪米**
5-7日、国際民主同盟（IDU）フォーラム出席のためにワシントンを訪れたサンドゥ大統領は、ハリス米国副大統領、イェレン米国財務長官、グランホルム米国エネルギー長官、サリバン大統領補佐官、パワー-USAID 長官、ペローシ下院議長、ゲオルギエバ IMF 専務理事、議会外交委員会メンバー、トマス＝グリーンフィールド米国国連大使、友好議連メンバー、ペイチノヴィッチ＝ブリッチ欧州評議会事務局長等と会談した他、在米モルドバ人との会合を行った。ハリ

ス米国副大統領との会談では、特に露によるウクライナ侵攻後のモルドバの状況と直面する主要な問題について議論され、サンドゥ大統領は米国からの各種支援に謝意を表明した。

- **ポベスク外相のスウェーデン訪問**

6日、スウェーデンを訪問したポベスク外相はビルストロム・スウェーデン外相と会談し、スウェーデンの2023年上半期欧州評議会議長国、モルドバのEU加盟とそのため改革、欧州政治共同体2023年会合のキシノウ開催、スウェーデンの対モルドバ支援、地域情勢とそのモルドバへの影響につき議論した。

- **ガブリリツァ首相のウクライナ訪問**

6日、ウクライナを訪問したガブリリツァ首相はキーウにてシュミハリ・ウクライナ首相と会談し、エネルギー、経済、輸送、インフラ、EU加盟等の分野での協力につき議論した。ガブリリツァ首相は、対ウクライナ支援と領土一体性の支持を再確認した。また、5年間の高等教育分野での協力（奨学金の提供、学生及び教授向けのトレーニングとセミナーの実施等を含む）覚書に署名が行われた。ガブリリツァ首相はブチャとイルピンも訪問した。

- **ポベスク外相のトルコ訪問**

7日、トルコを訪問したポベスク外相はチャヴシュオール・トルコ外相と会談し、両国の戦略的な二国間関係を再確認し、二国間の貿易について議論した。ポベスク外相はエネルギー分野での協力に関心を示し、トルコからの支援及び黒海地域での協力の重要性を強調した。

- **汚職の疑いがあるモルドバ人の英国制裁リスト入り**

9日、ヴラッド・プラホトニクとイラン・ショールが英国による汚職対象者の制裁リストに追加され、資産凍結と渡航制限の対象となった。サンドゥ大統領とガブリリツァ首相は英国による右決定を歓迎した。

- **欧州議会議長の当地訪問**

10日、サンドゥ大統領は当地を訪問したメツォラ欧州議会議長と会談し、EU加盟に向けたEU議会の支援に謝意を表明し、加盟に向けてモルドバ当局は引き続き汚職(億滅)や司法改革にむけて努力していくことを再確認した。

また、メツォラ議長はモルドバ議会で演説を行い、モルドバのEU加盟に向けてEU議会はできる限りの支援を行う、と述べた。

- **サンドゥ大統領のジュネーブ訪問 (Effective Development Co-operation Summit 出席)**

12日、Effective Development Co-operation Summit 出席のためジュネーブを訪問したサンドゥ大統領はスピーチにおいて、民主主義の過程にいる国へのより多くの援助の必要性に言及し、これまでモルドバ政府がとってきた複数の危機対応の努力を紹介した。同日、カシス・スイス大統領と会談し、スイスからのこれまでの支援に感謝し、欧州自由貿易連合(EFTA)との最終段階にあるFTA交渉のダイナミズムを歓迎した。

- **ポベスク外相のブリュッセル訪問(東方パートナーシップ会合出席)**

12日、東方パートナーシップ会合出席のためにブリュッセルを訪問したポベスク外相はヴァールハイ欧州委員(近隣政策及びEU拡大担当)と会談し、加盟交渉開始に対するEU機関と加盟国からの支援への期待を表明し、欧州政治共同体サミットのキシノウ開催について議論した。13日には、東方パートナーシップ会合に出席し、マージンでカヴォリ米陸軍大将・欧州連合軍最高司令官と地域情勢、モルドバの軍事能力強化、国際平和維持活動へのモルドバの貢献等につき議論した。

- **モルドバ外務・欧州統合省によるロシア大使の召致**

15日、モルドバ外務・欧州統合省はヴァスネツォフ駐モルドバ露大使を召致し、ザハロヴァ露外務省報道官の発言はサンドゥ大統領への侮辱に値するとして抗議した。同報道官は、モルドバの新しい選挙法がロシア語話者の権利の侵害であり、それがサンドゥ大統領の2020年の大統領選での公約とは異なることから大統領選でサンドゥが嘘をついていた、と発言した。

- **ポベスク外相のザグレブ訪問**

16日、ザグレブを訪問したポベスク外相は、グルリッチ＝ラドマン・クロアチア外相と会談を行い、地域情勢、露によるウクライナ戦争のモルドバへの影響、改革とモルドバのEU加盟、二国間協力や貿易等について議論した。副首相兼退役軍人省副大臣、議会副議長、議会外交委員会委員長等とも会談を行った。

- **社会党議員のCIS会議出席(於:モスクワ)**

16日、ノヴァク社会党議員はモスクワで行われた会議「CIS諸国間の議会間協力における政党交流の役割」に出席し、モルドバがCISの枠組みで積極的に活動していないことを悔やみ、社会党と共産党はCISはモルドバにとって最も積極的に関わるべき枠組みの一つと考えている、と述べた。

- **ルーマニア外相の当地訪問**

19日、サンドウ大統領、グロス議会議長、ガブリリツァ首相、ポベスク外相は、当地を訪問したアウレスク・ルーマニア外相とそれぞれ会談した。外相会談では、2022年の両国関係を振り返りこれまでで最も緊密な関係であることを確認した。

- **仏国防相の当地訪問**

21日、ポベスク外相、ノサトウ国防相は、当地を訪問した仏国防相とそれぞれ会談した。ポベスク外相との会談ではモルドバの国防・安全保障力の強化について、ノサトウ国防相との会談では両国のパートナーシップの強化、モルドバのEU加盟、モルドバ軍の改革、黒海地域の安全保障情勢について議論された。

- **サンドウ大統領とアゼルバイジャン大統領の電話会談**

22日、サンドウ大統領はアリエフ・アゼルバイジャン大統領と電話会談を行い、2022年の協力に感謝し、エネルギーや農業等の関心分野で引き続き協力することで一致した。

- **サンドウ大統領と独大統領の電話会談**

23日、サンドウ大統領はシュタインマイヤー独大統領と電話会談を行い、二国間協力と地域情勢について議論し、サンドウ大統領は独からの継続的な支援に感謝した。

3. 経済

- **トランスバルカン・ガス・パイプラインを通じたガス輸入試験**

2日、モルドバがトランスバルカン・ガス・パイプラインを通してガスを輸入した。4.3百万立方メートルのガスがウクライナとモルドバの国境間のカウシェニ・ポイントへ運ばれた。ブンザール・エネルギー社社長は本試験の実施を認めた。

- **12月、ニストル川右岸の電力需要の53%はクチュルガン発電所より調達**

3日、エネルギー社とクチュルガン発電所はニストル川右岸への12月の電力供給契約を締結した。本契約により、ニストル川右岸の電力需要の53%（204千メガワット）はクチュルガン発電所より1メガワットあたり73ドルで供給される。本契約により、ルーマニア企業との電力契約（日次約5千メガワット、1メガワットあたり90ユーロ）及びニストル川右岸の電力生産量を合わせると、ニストル川右岸の電力需要量に十分な量となる。本契約はモルドバ当局が、12月4日より、①モルドバガス社はガスプロムより供給の日次5.7百万立方メートル全てをトランスニストリアへ送る、②モルドバガス社は、ニストル川右岸で使用するガス日次3.5百万立方メートルを（ルーマニア等からガスを調達している）エネルギー社より追加調達すると決定したことにより可能となった。

- **基本利率は20%で据え置き**

5日、国立銀行は基本利率を1.5%減の年間20%で据え置くことを決定した。

- **欧州自由貿易連合（EFTA）加盟国の一部との自由貿易協定交渉最終段階**

7日、グメネ経済省次官が率いるモルドバ派遣団はジュネーブにて、EFTA加盟国であるアイスランド、リヒテンシュタイン、ノルウェー及びスイスとの自由貿易協定締結に向けた最終交渉を行った。本交渉は2021年より行われている。

- **2025年までにキシノウに2つの熱電併給発電所建設の意向**

7日、スプヌ・インフラ・地域開発相は、テルモエレクトリカ社の発電所二号機に代わる熱電併給発電所を2基建設するため、入札を開始したと発表した。発電所は世銀による第二回地域熱供給効率化プロジェクトの枠組みにより2025年までに建設される見込み。

- **2023年国家予算**

7日、政府は2023年度国家予算案を承認した。同予算案の収入は64.9十億レイ（3.4十億ドル）で前年予算比5.6十億レイ増、内訳は税収入56.9十億レイ及び無償資金協力5.5十億レイ。支出は83.2十億レイ（4.3十億ドル）で前年予算比9.3十億レイ増。内訳は社会保障費23.7十億レイ（前年予算より4.7十億レイ増）、教育費17十億レイ（同1.9十億レイ増）、一般国家サービス費14.5十億レイ（同3.9十億レイ増）、医療費0.2十億レイ（同1十億レイ増）、経済サービス費8.2十億レイ（同3十億レイ減）、公共秩序及び国家安全保障費6.2十億レイ（同0.3十億レイ増）、国防費1.5十億レイ（同0.6十億レイ増）、文化及びスポーツ費1.2十億レイ（同0.06十億レイ増）及び環境費0.5十億レイ（同0.1十億レイ増）等。財政赤字は18.3十億レイ（0.95十億ドル）で前年より3.7十億レイ増。

- **電気料金、キシノウは現行より21.8%値下げ**

8日、国家エネルギー規制庁はプルミエル・エナジー社が提供するキシノウ、南部及び中部の電気料金は現行より12.8%値下げの1キロワット時あたり4.62レイ（0.24ドル）、RED Nord社が提供する北部の料金は現行より17%値下げの同4.65レイ（0.24ドル）となる。

- **2022年11月、年間インフレ率31.4%**

12日、国家統計局は2022年11月の年間インフレ率は対前年同期比31.4%。内訳には食品33.1%増、非食品21.2%増、サービス78.2%増を含む。特に顕著な増加は電力140.4%増、天然ガス78.2%増、集中暖房48.5%増、石油製品39.8%増。

- **2022年穀物生産高、干ばつより過去5年平均より45%減**

13日、FAOはモルドバにおける穀物及び食品供給評価報告書にて、2021年～2022年にかけて深刻な干ばつ、肥料価格の大幅な高騰（3.5倍）、農業信用の利子率の高騰（4倍）、ディーゼル価格の高騰（2倍）及びロシア、ベラルーシ及びウクライナ市場へのアクセスを失ったことの複数のショックにより、2022年の穀物生産高は過去5年平均より45%減の見込みと報告した。

- **2022年1月～10月貿易統計**

15日、国家統計局は2022年1月～10月の輸出総額が3,630百万ドル、対前年同期比48%増と発表した。主な増加品目は石油製品439百万ドル（対前年同期比425百万ドル増、注：ウクライナへの再輸出）、種子及び油性果実350百万ドル（同168百万ドル増）、野菜油324百万ドル（同250百万ドル増）等。同期間の輸入総額は7,485百万ドル、対前年同期比31%増。貿易赤字は3,856百万ドルで18%増。

同期間の日本への輸出は2.6百万ドル、対前年同期比9%減。日本からの輸入は57.7百万ドル、7%増。

- **2022年9月末時点のGDP実績**

15日、国家統計局は2022年第3四半期におけるGDPは772億レイ（39.9億ドル）、前年同期比マイナス0.3%（グロス）、マイナス11.8%（季節調整）と発表した。2022年1～9月のGDPは1978億レイ（102.3億ドル）、前年同期比マイナス4.1%（実質）。減少の主な要因は農業マイナス17.1%（GDPの8.6%を占有）、建設業マイナス13.7%（GDPの6.9%を占有）、不動産業マイナス10.6%（GDPの6.5%を占有）、製造業マイナス7.7%（GDPの9.4%を占有）及びエネルギー生産及び供給マイナス10.9%（GDPの2.7%を占有）。

- **EUエネルギー・プラットフォームへのモルドバの統合**

17日、欧州委員会はEUエネルギー・プラットフォームの共同調達にモルドバを完全に統合することを決定した。これにより天然ガス供給の多様化が可能となり、モルドバはエネルギー安全保障を高められる。

- **2023年の5大・社会経済的チャレンジ**

21日、シンクタンク Expert-Grup はモルドバの2023年の5大・社会経済的な課題を公表した。1. ウクライナにおける戦争の継続による直接及び間接的な影響。2. 2023年公的予算の執行においてGDP6%の財政赤字の計画があること。3. エネルギー価格の更なる上昇のリスク。4. 2023年地方選におけるポピュリズムの台頭。5. 他国への移民と投資の引き上げによる経済成長の可能性が減るリスク。

- **2022年、自由経済区は最大80百万ドルの投資を誘致**

26日、チョバナ投資庁長官は2022年自由経済区は80百万ドルの投資計画をもつ外国投資家を誘致できたと述べた。内訳にはスイスの野菜・果物加工 Schöni Finefood社、ドイツのガラス繊維材料の BauTex Composites社、デンマークの貯蔵、ガラス繊維の Scan Plast社等がある。

- **2021年、モルドバ企業の売上高トップ10**

27日、報道機関 Mold-street は2021年におけるモルドバ企業の売上高トップ10を発表した。売上高順に、モルドバガス社6,722百万レイ（349百万ドル）、Agrofloris-Nord社6,136百万レイ（318百万ドル）、Moldretail Group社5,984百万レイ（311百万ドル）、ルクオイル・モルドバ社5,975百万ドル（310百万ドル）、ロンペトル・モルドバ社4,675百万レイ（243百万ドル）、Loteria Moldovei社4,458百万ドル（231百万ドル）、プルミエル・エナジー社4,294百万レイ（223百万ドル）、オレンジ・モルドバ社3,051百万レイ（158百万ドル）、テルモエレクトリカ社2,865百万レイ（149百万ドル）及びメトロ・キャッシュ&キャリアー・モルドバ社2,644百万レイ（137百万ドル）。

- **クチュルガン発電所との電力供給契約は1月も継続**

27日、エネルギーコム社は1月クチュルガン発電所より1メガワットあたり73ドルで25.1～26.3万ワットの電力を調達見込みと発表した。

- **政府、2023年の平均月給を前年より18%上げることを決定**

28日、政府は経済における2023年の平均月給の水準を前年より18%増加の11,700レイ（607ドル）とすることを承認した。

- **電気料金、キシノウは26%値下げ**

30日、国家エネルギー規制庁はプルミエル・エナジー社が提供するキシノウ、南部及び中部の電気料金は現行より26%値下げの1キロワット・アワーあたり3.42レイ（0.18ドル）、RED Nord社が提供する北部の料金は現行より17.4%値下げの同3.84レイ（0.20ドル）となることを決定した。

トランスニストリア関連

- **2022年、経済は18%縮小見込み**

19日、シンクタンク Expert-Grup は「トランスニストリア経済の実体」を発行し、トランスニストリア地域の2022年GDP成長率予測はマイナス18%、2023年は同マイナス2.5%と述べた。主な要因は経済の30%を占める工業生産が約1/3減少、ガスピロム社による天然ガス供給の一時的な削減及びニストル川右岸への電力供給の一時停止。平均賃金は実質3%～5%減少し、被雇用者は1,100人減少。

4. 経済協力

- **EU、モルドバの鉄道リハビリに20百万ユーロ支援**

2日、EUはモルドバの鉄道を欧州横断輸送ネットワーク(TEN-T)と連結させることを目的に、モルドバの鉄道のリハビリに20百万ユーロの無償資金協力を行うと表明した。

- **EU、モルドバとルーマニアの国境協力を77百万ユーロ支援**

7日、欧州委員会は2021年～2027年のモルドバとルーマニア間の国境協力プログラムに対する77百万ユーロの出資を承認した。

- **EBRD、道路修復に100万ユーロ追加融資**

8日、議会はEBRDとの道路修復案件に関して、100百万ユーロの追加融資となる第三回改訂を批准した。本追加融資は国内南部50kmの道路を対象としている。

- **ドイツ、警察に発電機70台供与**

12日、ドイツは警察に6.7万ユーロに相当する70台の発電機を供与した。

- **アメリカ、エネルギー安全保障強化に42百万ドル追加支援**

13日、アメリカはUSAIDのモルドバエネルギー安全保障活動プログラムに追加で42百万ドル支援すると表明した。本追加支援には、医療機関等への発電機50台、発電線の欠陥を迅速に検査するためのドローン10台等が含まれる。

- **スウェーデン、ニストル川両岸の輸出促進に4.6百万ユーロ支援**

14日、スウェーデンは、UNDPが2018年より実施しているビジネス環境の改善及びニストル川左岸からの輸出の規制枠組みのモルドバの外国貿易への統合を目的とするプロジェクトに4.6百万ユーロの追加支援を行う。本追加支援により40以上のビジネスの発展と200以上の雇用が生まれる見込み。

- **世銀、予算需要に43.8百万ドル無償支援**

21日、議会財務委員会は、2023年5月31日までに43.8百万ドルを予算需要に充てる世銀との無償資金協力協定を批准した。

- **ドイツ、2.2百万ユーロ分の車両を国境警察に供与**

21日、ドイツは国境警察に2.2百万ユーロ分のトヨタ・ハイラックスを供与した。

- **フランス、医療機関向けに12台の発電機を供与**

21日、フランスはEU市民保護メカニズムを通じて医療機関に24.5万ドル相当の12台の発電機を供与した。

- **USAID、医療機関向けに22台の発電機を供与**

21日、USAIDは医療機関に98万ドル相当の22台の発電機を供与した。

- **2022年、外国からの財政予算支援は671百万ユーロ**

29日、財務省は外国からの財政予算支援は671百万ユーロで、年初の計画より423百万ユーロ多かったと公表した。内訳はIMFより55百万ユーロ及び33.2百万ドル、世銀グループより101.3百万ユーロ及び9.2百万ドル、EUより75百万ユーロ、AFDより75百万ユーロ、ドイツより40百万ユーロ等。

5. 対日関係

• サンドゥ大統領の訪日（WAW！2022出席）

1－3日、WAW！2022出席のために訪日したサンドゥ大統領は、岸田総理、林外相及び細田衆議院議長と会談を行った他、日・モルドバ友好議連関係者、経団連、及び在日モルドバ人コミュニティとの会合を行った。

• ポベスク外相と武井外務副大臣の会談（OSCE外相理事会マージン、於：ポーランド）

3日、ポベスク外相はOSCE外相理事会のマージンで武井外務副大臣と会談した。会談では、日本からの投資、エネルギー、人道分野等、分野ごとに具体的な形で良好な関係が保てている両国関係について議論した他、欧州及びアジアの地域情勢につき意見交換した。

• 日本より27百万ドルの支援を受領

9日、ポベスク外相は離任する片山大使と面談した。会談の中で、ポベスク外相は、サンドゥ大統領の訪日中に承認された日本政府からの27百万ドルの支援に対する感謝の意を表明した。

• 草の根を通じた新規医療機材供与プロジェクトに署名

23日、日本は草の根・人間の安全保障を通じ、公立医療衛生機関カウシエニ県病院に約4万ドルを供与し超音波診断装置を調達する無償資金協力を署名した。